

---

# HOWEVER

亮也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

HOWEVER

### 【著者名】

亮也

N1685E

### 【あらすじ】

何で俺の居場所に、お前がいつもいるんだよ?...うぜーだけじゃん?女なんて・・・。

## 第1話

何も考えたくない。

幸せって何だよ？？

俺にはそんなもの、いらねーよ。

なのに・・・

アイツはまいつもでも俺に付きまとつんだ。

頼んでもないことを・・・アイツは懲りずでやる。

俺が、例え間違った道に進んでも。

アイツはまだこんなときでも、俺の前に現れて・・・。

俺に優しくするんだ。

「おーい」

俺は朝つぱらからだりー学校に通つ高校一年生。

俺は一言で言つと、不良だ。

茶髪の首筋まで伸びた髪の毛。よく女子にはイケメンと言われている・・・。

だが、俺にはどうでもいい。

教師にも要注意人物として、俺を見張ることがある。

「あ？」

「お前相変わらず、モテるよな（笑）」

「言つてる意味がわからねーけど？」

俺は隣に座る親友の飛鳥真を睨みつける。

「だつてさ、見ろよこれ！－！」

「コイツは・・・・・。

校内新聞？？

「お前、ダントツトップ（笑）」

普通ここで笑うか？？俺を馬鹿にしてんのか？？

「は？？」

俺は何でこんな顔に生まれたんだ？？

「まあ、当然だな」

モテたい奴がモテればいい・・・。俺は女ウケは真っ平だ。

「そんなん捨てる」

俺は朝からイラつき、一人屋上に向かった。

「おい麗、何処に行くんだよ？」

何でお前に言つ必要がある？

「屋上。一服してくる」

「俺も行くわ！」

「お前が来るとうせーから」

「何だよそれ！！」

そのままの意味だけど？？

「じゃあな」

俺はうざい奴をほつといて、屋上に向かつた。

＊＊＊＊＊＊＊＊

屋上には俺一人だけだつた。

俺は学ランのポケットから、煙草を取り出す。

空を見上げた。俺は、よく屋上に来ると決まって空を見る。

今日も・・・一段と快晴だな。

アイツが来ると、「お前らしきねーな」って言われるのが田に見えてる。

だから、ここは俺専用の居場所だった・・・。

今の俺の態度はまさしく、不良だ。

飛鳥真置いてつて正解だな（笑）

「あのー」

は？何でここにいるんだよ？？

俺は、声のする方に目だけを向けた。

つか・・・、ここ俺だけじゃねーの？？

「そこ、私も座りたいんだけど・・・。」

は？？何だ？この女。

つか、俺を見てる割にはコイツ、冷静じゃね？？

そこらへんのつばー女なら、耳がキンキンしてつばーのこ。

「は？」

「ちゅうちょ」と、話めてくれる？？

「向でお前の指図、受けなきやこけねーんだよーーー。」

第一、女に命令されるの、初なんだけど???

「図々しーんだよーー。」

俺は、声を荒くして怒鳴った。

それでも、この女は顔色一つ変えずに俺を見た。

「そんなのは、あんたに言われなくとも分かってるわよーーーだけ、立ちっぱなしも疲れるのーーー。」

俺は、反抗してきた相手が初めてでかなり驚いている。

『氣のつえー女。

それが、アイツの第一印象だった・・・。



## ウザイ女

「てか、貴方はここで何してるの?」

隣の女が急に話掛けてきた。

何してんのって……

お前が俺の居場所をとったんだろうーがーー!

「別に

「別にって(笑)」

どいつもこいつも俺の事馬鹿にしてんのか？

笑ってんなよ！

「お前は何でいんだよ」

「あ……私？一人になりたいからかな……」

コイツ友達いねーのか？

どちらにせよ、俺には関係ねーしな。

暫く沈黙が続いた。

両者一言も話さうとしない。

「ねえ……貴方つてモテるんでしょ？」

何でいきなり聞いてんだよ！――

お前に話して意味あんのかよ。

「は？」

「やつぱつ。」

意味不明……。

「意味わかんね」

「校内新聞に書いてあつたから。彼氏にしたい人N o · 1の人（笑）」

女は横目でクスクスと笑う。  
俺は益々いらつき始める。

「お前ウザイ」

流石に傷つくか……。

「知ってるよ」

返事しやがるし。

「知つてんなら早くここから出でよ」

「私も今お取り込み中だから（笑）」

取り込み中とか何もしてねーだろーー！

「は？何処が？」

「何で私がここにいたらダメなの？」

「俺の居場所だから

「あっそう

「分かつたら出てけよ

しかし女は凶太いもんだ。

今更ながら痛感する。

「出でよー。お前邪魔。出でけよ

「分かった。最後だけ、質問してもいい?」

「何だよ

「貴方の名前は何?」

何でコイツに話さなきゃなんねーんだよ

「はー。」

「早く、教えてよ。お前へりこでしょーがー！」

勝手にキレてる……

「皆川」

「皆川君ねーじゃ、バイバイ」

「なんだアイツ……。」

あのカザイ女がどこへ消え去った。

尊の二人組（前書き）

## 噂の二人組

俺はあの後に屋上で煙草を吸っていたら、飛鳥真が来て……

「おい、麗さつき超美人の女の子いたよな?」

ウザイトークが破裂。

「しらねーよ」

「そんなこと言つてよーお前何気にやるなあ～」

意味不明。

何言つてんだ、コイツ。

「は？」

「美男美女カップルかあ～（笑）」

「勝手に話つくんな」

「まあ、今のお前じやまだ無理だな！」

「死ね」

「コイツの相手は疲れるだけ！」

俺は屋上を出て現在元気だ。

今俺は体育館にいる。

何故かつて?

今日は学年集会だからな。

「麗、またお前やらかした? (笑)」

「はっ」

「とほけんな（笑）」

「ヨイツ、ぶん殴りてえー。」

「何もしてねーし」

大体、俺はもし今日の集会で俺のせいに集まる事になつたら

俺はいい注目の的だ。

「麗、お前呼んでるー。」

「は？ どこつ？」

「ほひ、 あそ！」。

飛鳥真は体育館の入口に立っている女の子を指を差した。

「あー、 うぜー女だ。

「は？何でアイツ…」

「アイシッてことは、しってんの…？」

知ってるも何も屋上で会ったんだから……。

「あ

「ふーん。 そ、うなんだ」

「反応薄…………。」

でも余計な事聞かれないとばかりいいや。

俺はあの女の所までゆっくり歩いていた

皆の視線が一気に、俺に集まる

「何だよ」

俺は急そつに女に向かつて言った

アイツは俺を見ると、顔をしかめながら眉を歪めた

「芦川君だっけ?」

今更、確かめるのかよ。

「芦川君にいや、ちょっと聞きたい」とあつたんだ

「だから何？」

「皆川君は、水月ちゃん知ってる？」

「は？ 水月？」

「全然知らないえ…」

「誰だよ」

アーツは溜息を漏らし、前髪をクシャクシャしながら俺を見た

## 嵐の前の静けさ

「水月ちやんだよーーー。」

「は? ?」

何なんだ・・・一体。

つか、誰か知らんし。

「え? ? ? 本当に知らないの? ?」

「あ」

田の前のウザイ女は、俺の顔を不満そうに覗き込んだ。

「よく、新聞に載るんだけど・・・」

は？

そんなん知るかよ・・・

「どうやら、見込みなさそうだ・・・」

「は？」

「ひりん。なんでもないよー。」

何なんだ・・・？？

つか、もう戻らぬーと・・・

「用、それだけなら行く

「あ・・・」めん――忙しきのこ・・・

「別に」

「今度、水月ちゃんに会わせてあげるーー！」

「は？」

「てか、新聞読みなよ（笑）」

何でてめえに言わねえといけねえの？？

まじ女つてうざい生き物だ。

「じゃーねー皆川君」

女は体育館の方へと走り去った・・・

「お疲れー・麗ー。」

相変わらず、テンションが馬鹿高い。

しかも、なんかニヤつこいて氣色悪い・・・

「麗、」の後缀である。..」

「あ？」

「今日、集まるか？」

「ああ

「そういえば、今日は俊先輩からなんか話したいことがあるみたいだぞ？」

「麗、今日は俊先輩からなんか話したいことがあるみたいだぞ？」

「ああ・・・多分、今後のチームの予定か。

もつじょき、引退だしな・・・

「引退式、麗はもうひる出るよな？？」

「ああ」

「俊先輩も、もつすぐ引退だな～」

「ああ」

俊先輩には、いろいろ感謝している。

「これでも、精一杯俺なりに頑張ったはず。」

それでも、俊先輩がいなければこのチームは相当ひどく、荒れてい  
ただろう。

それぐらい、先輩には感謝していた。

先輩が俺を必要としてくれたのも、このチームを思つてやつたこと  
だろう。

だが、俺には十分な存在理由だと思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1685e/>

---

HOWEVER

2010年12月5日05時39分発行